

曾於醫師会立有明病院

様式

事業計画書（単独支援給付金）

鹿児島県知事 殿

単独支援給付金の支給を受けたいので、下記のとおり事業計画書を提出します。

また、下記3の「支給申請に関する誓約事項」について誓約します。

1. 申請者の情報		申請年月日	2021	年	6	月	30	日
フリガナ	ソオイシカイリツアリアケビョウイン	医療機関の 住所・所在地	〒 899 - 7402					
医療機関の名称	曾於医師会立有明病院		鹿児島県志布志市有明町野井倉 8288番地1					
フリガナ	コウエキシャダンホウジンソオイシカイ カイチョウ テヅカヨシヒサ	事務担当者	職・氏名	事務長 町田薫				
開設者 <small>(代表者の職・氏名も記載)</small>	公益社団法人曾於医師会 会長 手塚善久		電話番号	099-477-1111				
			ファクシミリ	099-477-1398				
			電子メール	jimu@soo-ariake.opal.ne.jp				

2. 支給申請額

支給申請額(千円)	154,584
-----------	---------

3. 支給申請に関する誓約事項

- (1) 本給付金に関する報告や調査について、厚生労働省又は県から求められた場合には、これに応じます。
- (2) 本給付金の給付後、以下の①から③に該当した場合は、本給付金の全額又は一部を返還します。
- ① 単独病床機能再編計画に記載の内容について達成が見込めなくなった場合
 - ② 給付金の支給を受けた日から令和8年3月31日までの間に、同一の構想区域に開設する医療機関において対象3区分の許可病床数を増加させた場合（ただし、特定の疾患に罹患する者が多くなる等の事情により、厚生労働大臣及び都道府県知事が特に認める場合に許可病床数を増加させる場合はこの限りではない。）
 - ③ 申請内容を偽り、その他不正の手段により給付金の支給を受けたと認める場合
- (3) 暴力団等の反社会的勢力又は反社会的勢力と関係を有しておりません。

(添付書類)

- ① 病床稼働率算出の根拠となる平成30年度病床機能報告の写し又は令和元年度の病床機能報告の写し等
- ② 地域医療構想を達成するために必要な病床数の削減であることの説明書（別添「単独病床機能再編計画書」）
- ③ 過年度に申請した単独支援給付金支給申請書兼口座振込依頼書の写し（過年度に「令和2年度病床機能再編支援補助金における令和2年度地域医療構想を推進するための病床削減支援給付金」又は「地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する事業のうち単独支援給付金支給事業」により支給を受けている場合に限る。）

■支給申請額算定シート

1	再編前の稼働病床数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分(※3)の合計
	① 平成30年度病床機能報告			34		35	70	139
② 令和2年4月1日時点(※1)			34		35	70	139	69
③ 再編前病床数=②(※2)		0	34	0	35	70	139	69

- ※1 各機能ごとの数値については、地域医療構想調整会議にて確認されていること。
 令和2年4月1日時点で病床数の変化があった場合は、変更前の病床数を記載すること。
 平成30年度病床機能報告から令和2年4月1日までの間に、病床数の変更がない場合は、①と同じ値を記載すること。
- ※2 ①平成30年度病床機能報告時又は②令和2年4月1日時点の対象3区分合計のいずれか少ない方を基準とする。
- ※3 対象3区分=高度急性期、急性期、慢性期(以下同様)

2	再編後の許可病床数 (=再編後の稼働病床数)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟	合計	うち対象3区分の合計
				0		0	0	0

3	他の医療機関との病床融通数 (※4)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	対象3区分の合計
	うち同一開業者の医療機関との病床融通数		0		0	0
		(0)		(0)	(0)	

- ※4 病院統合や地域医療連携推進法人の病床融通制度等を活用し、
 他の医療機関から病床の融通を受けた場合はマイナス表記、病床を融通した場合はプラス表記とすること。
 また、「(参考) 病床融通に関する概要」シートに関連する医療機関の病床数を記載すること。

4	対象3区分から 回復期又は介護医療院へ 転換した病床数	回復期	介護医療院	合計
		0	0	0

5	減少病床数 (1の③-2)	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分の合計
			0	34	0	35	70	139

6	過去に 令和2年度病床機能再編支援補助金 及び本事業で支給済の病床数	支給済病床数	5.減少数	4.うち転換数	6.支給済数	3.うち他院への 融通数	支給対象
				69	0	0	(0)

7	再編前の許可病床数	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分の合計
	① 平成30年度病床機能報告			34		35	70	139
② 令和2年4月1日時点(※5)			34		35	70	139	69

- ※5 平成30年度病床機能報告から令和2年4月1日までの間に、病床数の変更がない場合は、①と同じ値を記載すること。

8	対象3区分の病棟の 年間在棟患者延べ数(人)	高度急性期	急性期	慢性期	合計
	① 平成30年度病床機能報告(※6)		9,886	10,981	20,867
② 令和2年4月1日時点(※7)				0	

- ※6 対象3区分の病棟に係る平成30年度病床機能報告の報告様式1(病棟票)の(48)欄の数値を計上すること。なお、平成30年度病床機能報告の報告様式1(病棟票)において、「過去1年間の間に病棟の再編・見直しあり」と報告した病棟の年間在棟患者延べ数については、以下の式により補正して計上すること。

○ 補正後の年間在棟患者延べ数 = 年間在棟患者延べ数(48)欄に記載された数値 ÷ 報告可能な対象期間(月単位) × 12

(注) 報告可能な対象期間(月単位)は、平成30年度病床機能報告で報告した月数とすること。

例) 報告可能な対象期間を「平成29年7月1日～平成30年12月末日」とした場合 ⇒ 報告可能な対象期間(月単位) = 6

- ※7 7の①と7の②の値が同じ場合は8の②の入力は不要。

9	<選択>	対象3区分の病床稼働率	一日平均実働病床数	適用
	A 平成30年度病床機能報告	82.8%	57	
B 令和2年4月1日時点	0.0%	0		

10	再編前の対象3区分の稼働病床数 から一日平均実働病床数までの減 少分に係る支給額	単価(千円)	病床数	支給額(千円)
			2,052	12

11	一日平均実働病床数から再編後の 対象3区分の許可病床数までの減 少分に係る支給額	単価(千円)	病床数	支給額(千円)
			2,280	57

要件 審査	90%減少チェック	○
----------	-----------	---

12	支給申請額(千円)	154,584
----	-----------	---------

(別添)

单独病床機能再編計画書

作成日：令和3年6月30日

曾於医師会立有明病院

1 本事業にかかる単独病床機能再編医療機関の概要

医療機関名称	曾於医師会立有明病院
開設主体	公益社団法人曾於医師会
所在地	鹿児島県志布志市有明町野井倉 8288-1
構想区域	曾於保健医療圏
許可病床数	総許可病床数 139 床 高度急性期 0 床, 急性期 34 床, 回復期 0 床, 慢性期 35 床 休棟 70 床
稼働病床数	総稼働病床数 69 床 高度急性期 0 床, 急性期 34 床, 回復期 0 床, 慢性期 35 床 休棟等 70 床
1 日あたり患者数 (稼働率)	入院患者数 57 人/日 (82.8%) 外来患者数 21 人/日
標榜診療科	内科, 外科, 産科, 婦人科
職員数(常勤換算)	71.1 人
(医 師)	4.1 人
(看護職員)	35.5 人
(専 門 職)	7.8 人
(事務職員)	6 人
(看護補助者)	13.8 人
(そ の 他)	3.9 人

2 構想区域における現状と課題

- ・曾於医療圏の総人口は 2015 年の約 8 万人から、2025 年には約 7 万人に、2040 年には約 5.5 万人になることが見込まれている。
- ・2010 年比の 2025 年総人口減少率は県内の医療圏で 2 番目に高く、65 歳以上人口は 2020 年をピークに、その後、減少する見込みである。また、高齢夫婦世帯と高齢単身者世帯が全世帯に占める割合は県内で最も高く、高齢夫婦世帯のみを見ても県内で最も高い。また、高齢単身世帯が占める割合については、県内で 2 番目に高い。
- ・人口 10 万人当たり医療従事医師数は、県内で最も少ない。また、人口 10 万人あたり常勤看護師数も県内で最も少なく、薬局従事薬剤師数も県内で 3 番目に少ない状況である。
- ・圏域内での完結率は 70%程度であり、入院患者の多くが宮崎県又は肝属医療圏へと流出しているため、今後も連携強化を図る必要がある。
- ・各医療機関の役割分担及び連携のあり方を明確化し、不足する回復機能の充足を図る

必要がある。

・市町を中心とした地域包括ケアシステムの構築を推進する中であって、今後、増加が見込まれる在宅医療の需要に対応するため、訪問診療や訪問看護等の充実とあわせ、国が検討を進めている医療機能を内包した施設系サービス等、新たな選択肢を含めた医療・介護基盤の整備など、在宅医療提供体制を充実させることが求められる。

3 病床機能再編計画の概要

(地域医療構想の実現に向け必要な取組であることを示す内容とすること)

当初策定した2025年に向けた計画では、休棟中の70床は廃止し、急性期34床と慢性期35床は維持するとしていたが、医療資源の集約をはかるため令和3年度にすべて廃止する再編計画とした。

鹿児島県地域医療構想で当圏域の急性期と慢性期は2025年必要病床数を上回っていることから、当院の病床を廃止することは地域医療構想に資するものとする。

なお、病床廃止により当院の医療従事者は、曾於医師会立病院、曾於医師会立訪問看護ステーション、曾於医師会立介護老人保健施設ありあけ苑へ配置予定である。

今後、増加が見込まれる在宅医療の需要に対応するため訪問看護については、訪問リハビリの充実も含め、強化を図っていく予定である。

平成30年度病床機能報告 (平成30年7月1日時点)	機能	許可病床数	稼働病床数
	高度急性期	0床	0床
	急性期	34床	34床
	回復期	0床	0床
	慢性期	35床	35床
	休棟等	70床	70床
	病床数合計	139床	139床



令和元年度病床機能報告 (令和元年7月1日時点)	機能	許可病床数	稼働病床数
	高度急性期	0床	0床
	急性期	34床	34床
	回復期	0床	0床
	慢性期	35床	35床
	休棟等	70床	70床
	病床数合計	139床	139床

平成30年7月1日時点から
下記移床・転換がある場合に記入

同一開設者の医療機関への 病床融通数	介護医療院への転換数
床	床
床	床
床	床
床	床
床	床
床	床
床	床



令和2年4月1日時点	機能	許可病床数	稼働病床数
	高度急性期	0床	0床
	急性期	34床	34床
	回復期	0床	0床
	慢性期	35床	35床
	休棟等	70床	70床
	病床数合計	139床	139床

令和元年7月1日時点から
下記移床・転換がある場合に記入

同一開設者の医療機関への 病床融通数	介護医療院への転換数
床	床
床	床
床	床
床	床
床	床
床	床
床	床





病床機能再編完了時点	機能	許可病床数	稼働病床数	令和2年4月1日時点から 下記移床・転換がある場合に記入	
				同一開設者の医療機関への 病床融通数	介護医療院への転換数
	高度急性期	0床	0床	床	床
	急性期	0床	0床	床	床
	回復期	0床	0床	床	床
	慢性期	0床	0床	床	床
	休棟等	0床	0床	床	床
病床数合計	0床	0床	床	床	

4 具体的計画について

単独病床機能再編後の診療体制

- ・急性期、慢性期病床の他、外来機能も廃止する。
- ・廃止後の患者の受入先は、急性期については、曾於医師会立病院等の急性期病床だけでなく、当該地域の地域包括ケア病棟の活用。慢性期については医療療養病床に限らず、介護医療院や曾於医師会立介護老人保健施設ありあけ苑等の施設を活用していく計画である。在宅での受入れがスムーズに行えるように訪問看護の充実も図る計画である。
- ・当院周辺には複数の医療機関があり、地域住民への外来診療提供体制については問題ない。また、当院の通院中の患者については患者や家族の希望に応じて地域の診療所等に紹介を行っていく予定である。
- ・近年、産科の外来受診者は年間で1桁となっている。婦人科については曾於医師会立病院に婦人科があることから、産科、婦人科に関する医療提供体制に問題はない。

医療機関名称	曾於医師会立有明病院	
構想区域	曾於保健医療圏	
許可病床数	0床	
区分ごとの病床数	高度急性期	0床
	急性期	0床
	回復期	0床
	慢性期	0床
標榜診療科		

単独病床機能再編完了予定年月日

単独病床機能再編完了予定年月日	令和3年10月1日
-----------------	-----------

<ID:14630431/病棟コード:190620001/貴院名:曾於医師会立有明病院/病棟名:A-1病棟/病棟No.1>

平成30年度病床機能報告 報告様式1【病院】
③ 病棟票

ID(報告マニュアル送付状に記載の8桁コード)	14630431	貴院名	曾於医師会立有明病院
-------------------------	----------	-----	------------

※「ID」及び「貴院名」は、「H30様式1病院基本票」シートから参照しています。

病棟情報	※病棟コードは、電子レセプトにより診療報酬請求を行っている病院であって、6月診療分であって7月審査分の電子の入院レセプトに一般病床または療養病床の入院に係る「病棟コード」を記録頂いた場合、電子レセプトに記録頂いた病棟コード(「1906****」の9桁コード)をご記入ください。 上記以外の医療機関・病棟は、以下の病床機能報告制度ホームページに掲載されている「病床機能報告に関する電子レセプト作成の手引き」をはじめとする通知及びマスターファイル等ご参照のうえ、病棟ごとに報告様式1・2を作成する際に共通となる病棟コード(「1906****」の9桁コード)を選択しご記入ください(ただし、電子レセプトに記録していない場合であって休棟中等の場合、病棟コードの5桁目を「5」とすることは可とします)。 www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000055891.html (厚生労働省ホームページ>政策について>分野別の政策一覧>健康・医療>医療>病床機能報告)		
	レセプトに印字又は表示した名称	病棟コード※	病棟名
急性期機能病棟01	1906 20001	A-1病棟	

※「病棟コード(下5桁)」及び「病棟名」は、「H30様式1病院基本票」シートから参照しています。

1. 医療機能【医療機能の選択にあたっての考え方については、「平成30年度病床機能報告マニュアル①」を参照してください。】

① 2018(平成30)年7月1日時点の機能

1. 高度急性期機能	2. 急性期機能	3. 回復期機能	4. 慢性期機能	(1)	2
5. 休棟中(今後再開する予定)	6. 休棟中(今後廃止する予定)				

② 2025年7月1日時点の機能

1. 高度急性期機能	2. 急性期機能	3. 回復期機能	4. 慢性期機能	(2)	2
5. 休棟予定	6. 廃止予定	7. 介護保険施設等へ移行予定			

③上記②で「7. 介護保険施設等へ移行予定」を選択した場合、2025年7月1日時点の移行予定先について選択してください。

1. 介護医療院	2. 介護老人保健施設	3. 介護老人福祉施設	4. 1~3以外の介護サービス	(3)	
----------	-------------	-------------	-----------------	-----	--

⚠ 上記項目1において「2025年7月1日時点の機能の実現」に向けて、それ以前に変更予定がある場合は、下のチェックボックスにチェックを入れて、変更後の機能、その変更予定年月を入力してください。(新規)

2025年7月1日迄に変更予定あり ⇒ 変更後の機能 ⇒ (4) 変更予定年月 西暦 年 月

2. 許可病床数【平成30年7月1日時点】・稼働病床数【平成29年7月1日~平成30年6月30日】

※一般病床、療養病床についてのみ数えて、精神病床、結核病床、感染症病床は除いてご記入ください。
 ※1病棟当たりの病床数については、原則として60床以下が標準とされています。病床数の標準を上回っている場合については、①②以上の病棟に分割した場合には、片方について1病棟として成り立たない、②建物構造上の事情で標準を満たすことが困難である、③近く建物の改築がなされることが確実である等、やむを得ない理由がある場合に限り、認められます。

項目	許可病床数	稼働病床数		過去1年間に一度も入院患者を収容しなかった病床数		2025年7月1日時点の予定病床数(新規)	
		《自動計算により算出》	※	※	※		
① 一般病床 (5)	34 床	34 床	0 床	34 床			
上記①のうち、医療法上の経過措置に該当する病床(平成13年3月1日時点で既に開設許可を受けている一般病床であって、6.3㎡/床(1人部屋)・4.3㎡/床(その他)となっている病床数) (6)	0 床						
② 療養病床 (7)	0 床	0 床	0 床	0 床	0 床		
上記②のうち、医療療養病床 (8)	0 床	0 床	0 床	0 床	0 床		
上記②のうち、介護療養病床《自動計算により算出》 (9)	0 床	0 床	0 床	0 床	0 床		

1病棟当たりの病床数が標準の60床以下を上回っていることについて、やむを得ない理由があり、認められている場合には、右の項目にチェックを入れてください。(10)

※過去1年間に一度も入院患者を収容しなかった病床数は、許可病床数から、過去1年間に最も多く患者を収容した時点で使用した病床数を差し引いて算出してください。

上記において「稼働病床数」の合計が0床である場合には、その理由をご記入ください。【自由記入欄】(条件付必須)

<<ID:14630431/病棟コード:190620001/貴院名:曾於医師会立有明病院/病棟名:A-1病棟/病棟No.1>>

6. 入院患者数の状況【平成29年7月1日～平成30年6月30日の1年間】			
※一般病床・療養病床に入院するショートステイ利用者、正常な妊産婦、院内で出生した正常な新生児、生母の入院に伴って入院した健康な新生児又は乳児、公費負担医療、労災保険制度や労働福祉事業としての医療、自賠責、治験、人間ドック、その他の自由診療等での入院者、介護療養病床への入院患者についても、新規入棟患者数・在棟患者延べ数・退棟患者数に数えてください。			
※入院後の1回目の入棟・退棟のみを数え、同一病棟での再入棟・再退棟は数えません。また、DPC対象病棟間、同一の入院料を算定する病棟間の転棟であっても、新規入棟患者・退棟患者として数えてください。			
※1入院1単位と考え、入院期間が通算される再入院患者等についても新規入棟患者・退棟患者として数えてください。			
① 新規入棟患者数【平成29年7月1日～平成30年6月30日の1年間】《自動計算により算出》	(44)	502	人
上記①のうち、予定入院の患者・院内の他病棟からの転棟患者	(45)	130	人
上記①のうち、予定外の救急医療入院以外の入院患者	(46)	351	人
上記①のうち、予定外の救急医療入院の患者	(47)	21	人
② 在棟患者延べ数【平成29年7月1日～平成30年6月30日の1年間】	(48)	9,886	人
③ 退棟患者数【平成29年7月1日～平成30年6月30日の1年間】	(49)	500	人

※(44)～(49)の記入欄のうち、空白のものはゼロとみなします。

7. 入棟前の場所・退棟先の場所別の入院患者の状況				
※「新規入棟患者数」及び「退棟患者数」の考え方は、上記の「6. 入院患者数の状況」と同様になります。				
※下記①②は、新規で必須項目となりました。				
① 新規入棟患者数【平成29年7月1日～平成30年6月30日の1年間】《自動計算により算出》 (50)				
入棟前の場所	上記①のうち、院内の他病棟からの転棟	(51)	0	人
	上記①のうち、家庭からの入院	(52)	355	人
	上記①のうち、他の病院、診療所からの転院	(53)	116	人
	上記①のうち、介護施設・福祉施設からの入院	(54)	31	人
	上記①のうち、介護医療院からの入院(新規)	(55)	0	人
	上記①のうち、院内の出生	(56)	0	人
	上記①のうち、その他	(57)	0	人
② 退棟患者数【平成29年7月1日～平成30年6月30日の1年間】《自動計算により算出》 (58)				
退棟先の場所	上記②のうち、院内の他病棟へ転棟	(59)	108	人
	上記②のうち、家庭へ退院	(60)	229	人
	上記②のうち、他の病院、診療所へ転院	(61)	29	人
	上記②のうち、介護老人保健施設に入所	(62)	38	人
	上記②のうち、介護老人福祉施設に入所	(63)	8	人
	上記②のうち、介護医療院に入所(新規)	(64)	0	人
	上記②のうち、社会福祉施設・有料老人ホーム等に入所	(65)	26	人
	上記②のうち、終了(死亡退院等)	(66)	62	人
	上記②のうち、その他	(67)	0	人

※(50)～(67)の記入欄のうち、空白のものはゼロとみなします。

<<ID:14630431/病棟コード:190640002/貴院名:曾於医師会立有明病院/病棟名:B-1病棟/病棟No.3>>

平成30年度病床機能報告 報告様式1【病院】

③ 病棟票

「ID(報告マニュアル送付状に記載の8桁コード)」	14630431	貴院名	曾於医師会立有明病院
---------------------------	----------	-----	------------

※「ID」及び「貴院名」は、「H30様式1病院基本票」シートから参照しています。

病棟情報	※病棟コードは、電子レセプトにより診療報酬請求を行っている病院であって、6月診療分であって7月審査分の電子の入院レセプトに一般病床または療養病床の入院に係る「病棟コード」を記録頂いた場合、電子レセプトに記録頂いた病棟コード(「1906*****」の9桁コード)をご記入ください。 上記以外の医療機関・病棟は、以下の病床機能報告制度ホームページに掲載されている「病床機能報告に関する電子レセプト作成の手引き」をはじめとする通知及びマスターファイル等ご参照のうえ、病棟ごとに報告様式1・2を作成する際に共通となる病棟コード(「1906*****」の9桁コード)を選定しご記入ください(ただし、電子レセプトに記録していない場合であって休棟中等の場合、病棟コードの5桁目を「5」とすることは可とします)。 www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000055891.html (厚生労働省ホームページ>政策について>分野別の政策一覧>健康・医療>医療>病床機能報告)		
	レセプトに印字又は表示した名称	病棟コード※	病棟名
慢性期機能病棟02	1906 40002	B-1病棟	

※「病棟コード(下5桁)」及び「病棟名」は、「H30様式1病院基本票」シートから参照しています。

1. 医療機能【医療機能の選択にあたっての考え方については、「平成30年度病床機能報告マニュアル①」を参照してください。】

① 2018(平成30)年7月1日時点の機能

1. 高度急性期機能	2. 急性期機能	3. 回復期機能	4. 慢性期機能	(1)	4
5. 休棟中(今後再開する予定)	6. 休棟中(今後廃止する予定)				

② 2025年7月1日時点の機能

1. 高度急性期機能	2. 急性期機能	3. 回復期機能	4. 慢性期機能	(2)	4
5. 休棟予定	6. 廃止予定	7. 介護保険施設等へ移行予定			

③上記②で「7. 介護保険施設等へ移行予定」を選択した場合、2025年7月1日時点の移行予定先について選択してください。

1. 介護医療院	2. 介護老人保健施設	3. 介護老人福祉施設	4. 1~3以外の介護サービス	(3)	
----------	-------------	-------------	-----------------	-----	--

⚠ 上記項目1において「2025年7月1日時点の機能の実現」に向けて、それ以前に変更予定がある場合は、下のチェックボックスにチェックを入れて、変更後の機能、その変更予定年月を入力してください。(新規)

2025年7月1日迄に変更予定あり	⇒	変更後の機能 ⇒ (4)	変更予定年月	西暦	年	月
-------------------	---	--------------	--------	----	---	---

2. 許可病床数【平成30年7月1日時点】・稼働病床数【平成29年7月1日~平成30年6月30日】

※一般病床、療養病床についてのみ数えて、精神病床、結核病床、感染症病床は除いてご記入ください。
 ※1病棟当たりの病床数については、原則として60床以下が標準とされています。病床数の標準を上回っている場合については、①②以上の病棟に分割した場合には、片方について1病棟として成り立たない、②建物構造上の事情で標準を満たすことが困難である、③近く建物の改築がなされることが確実である等、やむを得ない理由がある場合に限り、認められます。

	許可病床数	稼働病床数 《自動計算により算出》		過去1年間に一度も入院患者を収容しなかった病床数 ※		2025年7月1日時点の予定病床数(新規)	
		床	床	床	床	床	床
① 一般病床 (5)	0	0	0	0	0	0	0
上記①のうち、医療法上の経過措置に該当する病床(平成13年3月1日時点で既に開設許可を受けている一般病床であって、6.3㎡/床(1人部屋)・4.3㎡/床(その他)となっている病床数)	0						
② 療養病床 (7)	35	35	0	35			
上記②のうち、医療療養病床 (8)	35	35	0	35			
上記②のうち、介護療養病床《自動計算により算出》 (9)	0	0	0	0			

1病棟当たりの病床数が標準の60床以下を上回っていることについて、やむを得ない理由があり、認められている場合には、右の項目にチェックを入れてください。(10)

※過去1年間に一度も入院患者を収容しなかった病床数は、許可病床数から、過去1年間に最も多く患者を収容した時点で使用した病床数を差し引いて算出してください。

上記において「稼働病床数」の合計が0床である場合には、その理由をご記入ください。【自由記入欄】(条件付必須)

《ID:14630431/病棟コード:190640002/貴院名:富於医師会立有明病院/病棟名:B-1病棟/病棟No.3》

6. 入院患者数の状況【平成29年7月1日～平成30年6月30日の1年間】		
※一般病床・療養病床に入院するショートステイ利用者、正常な妊産婦、院内で出生した正常な新生児、生母の入院に伴って入院した健康な新生児又は乳児、公費負担医療、労災保険制度や労働福祉事業としての医療、自賠責、治験、人間ドック、その他の自由診療等での入院者、介護療養病床への入院患者についても、新規入棟患者数・在棟患者延べ数・退棟患者数に数えてください。		
※入院後の1回目の入棟・退棟のみを数え、同一病棟での再入棟・再退棟は数えませんが、DPC対象病棟間、同一の入院料を算定する病棟間の転棟であっても、新規入棟患者・退棟患者として数えてください。		
※1入院1単位と考え、入院期間が通算される再入院患者等についても新規入棟患者・退棟患者として数えてください。		
① 新規入棟患者数【平成29年7月1日～平成30年6月30日の1年間】《自動計算により算出》 (44)	108	人
上記①のうち、予定入院の患者・院内の他病棟からの転棟患者 (45)	108	人
上記①のうち、予定外の救急医療入院以外での入院患者 (46)	0	人
上記①のうち、予定外の救急医療入院の患者 (47)	0	人
② 在棟患者延べ数【平成29年7月1日～平成30年6月30日の1年間】 (48)	10,981	人
③ 退棟患者数【平成29年7月1日～平成30年6月30日の1年間】 (49)	100	人

※(44)～(49)の記入欄のうち、空白のものはゼロとみなします。

7. 入棟前の場所・退棟先の場所別の入院患者の状況			
※「新規入棟患者数」及び「退棟患者数」の考え方は、上記の「6. 入院患者数の状況」と同様になります。			
※下記①②は、新規で必須項目となりました。			
① 新規入棟患者数【平成29年7月1日～平成30年6月30日の1年間】《自動計算により算出》 (50)	108	人	
入棟前の場所	上記①のうち、院内の他病棟からの転棟 (51)	108	人
	上記①のうち、家庭からの入院 (52)	0	人
	上記①のうち、他の病院、診療所からの転院 (53)	0	人
	上記①のうち、介護施設・福祉施設からの入院 (54)	0	人
	上記①のうち、介護医療院からの入院(新規) (55)	0	人
	上記①のうち、院内の出生 (56)	0	人
	上記①のうち、その他 (57)	0	人
② 退棟患者数【平成29年7月1日～平成30年6月30日の1年間】《自動計算により算出》 (58)	100	人	
退棟先の場所	上記②のうち、院内の他病棟へ転棟 (59)	0	人
	上記②のうち、家庭へ退院 (60)	17	人
	上記②のうち、他の病院、診療所へ転院 (61)	8	人
	上記②のうち、介護老人保健施設に入所 (62)	30	人
	上記②のうち、介護老人福祉施設に入所 (63)	8	人
	上記②のうち、介護医療院に入所(新規) (64)	0	人
	上記②のうち、社会福祉施設・有料老人ホーム等に入所 (65)	7	人
	上記②のうち、終了(死亡退院等) (66)	30	人
上記②のうち、その他 (67)	0	人	

※(50)～(67)の記入欄のうち、空白のものはゼロとみなします。